

2019年度 学校自己点検・自己評価

本校は、平成29年4月に開校し今春初めて卒業生を送り出すことができました。国家試験結果及び就職状況などの結果を受け、今年度より学校自己評価を実施いたしました。文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」にそって100項目について教職員による学校自己評価を実施し、集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見も含めここに報告します。

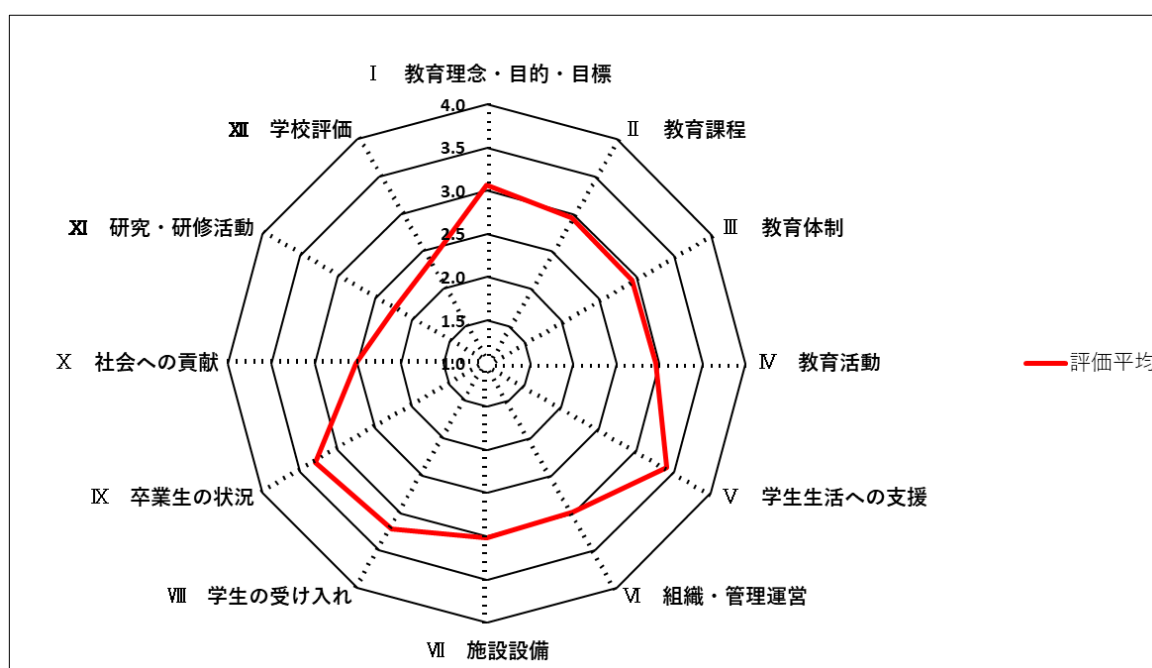
【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

| I | II | III | IV | V | VI |
|---------|------|------|------|--------|---------|
| 教育理念・目標 | 教育課程 | 教育体制 | 教育活動 | 学生生活支援 | 組織・管理運営 |
| 3.1 | 3.0 | 2.9 | 3.0 | 3.4 | 3.0 |

| VII | VIII | IX | X | XI | XII |
|------|--------|--------|--------|---------|------|
| 施設設備 | 学生受け入れ | 卒業生の状況 | 社会への貢献 | 研究・研修活動 | 学校評価 |
| 3.0 | 3.2 | 3.3 | 2.5 | 2.3 | 2.3 |

【大項目評価のレーダーチャート】



【大項目評価の自己評価の要約と評価】

I 教育理念・目標

教育目標は、学生便覧に明示し入学時オリエンテーションで説明している。

また、入学前においてもオープンキャンパス時の学校紹介などで入学希望者・保護者には説明しているが、入学後日常の場面で、教育目標に具体的に触れ、意識した行動を促す機会は少ない。今後は年度始期や学生への指導場面、保護者会を通して、教育目標に立ち返る機会が必要である。

II 教育課程

本校は開学4年目を迎えているが、3年目に定員数の変更や一部カリキュラム変更があり、教育課程評価は実施できていない。再来年のカリキュラム改正のための準備を踏まえ、カリキュラム委員会を有効に機能させ、教育課程を評価する体系を構築する必要がある。

また、医療創生大学とのカリキュラムの整合性を整え、編入学時の単位認定をスムーズに実施することで、学生の受益につなげていきたい。

III 教育体制

外部講師は専門性が発揮できるような配置となっているが、実施時期や時間などの調整に制限が多く、調整が困難なこともある。本来のカリキュラム進度を講師の都合に合わせざる得ない場合も多く、今後は進度を重視した講師選択も視野に入れる必要がある。また、授業評価を十分にできていない現状があり、次年度授業評価に取り組む必要がある。

IV 教育活動

シラバス等の見直しは、領域ごとに検討し授業計画や改善につなげている。

年度末には新型コロナ対策もあり、学生の主体的学習を十分サポートできたとは言えない。次年度は教材研究や視聴覚教材数の拡大を図り、効果的な授業を目指したい。

V 学生生活支援

学生の健康診断や予防接種計画など健康管理委員会を中心として、学生が主体的に行動できるように支援している。また、非常勤（保健師）により週1回健康・悩み相談を実施し、クラス担任・副担任と連携しサポートしている。

VI 組織・管理運営

25名中21名が教員免許を持ち、持たない教員は通信制の大学の教員課程で現在取得中である。キャリア支援として、学費支援などが実施されている。教員の研修関連項目が低かったことから、まだ開校して4年目の学校であるが、教育の質の向上と教員の人材育成のためにも教員ラダーや自己研鑽システムの構築が望まれる。

学校運営上の決定は週1回の運営会議で、適時迅速な対応に努めている。教職員は、職務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議等で検討している。

教務マニュアルを整備し、教員の学生指導における共通理解や新人教員のオリエンテーションなどに役立てている。

Ⅶ 施設設備

設備は指定規則に則り、学生数に応じた数が準備され、モデル人形やシミュレーター教材は充実している。

図書室や1F・4F学生ホール、情報処理室（パソコン室）は学生に開放され、学習スペースとして利用されている。

図書の必要性を吟味し、計画的に購入できるよう取り組む必要がある。

Ⅷ 学生受け入れ

広報を中心に東北6県の高校訪問や進学セミナーなどの参加によって、学校説明を実施している。また高校からの要請で模擬授業を実施するなど、高校との連携を図り、志願状況や学生の傾向など広く情報を得て、学生支援に活かしている。オープンキャンパスも年間12回実施し、多くの機会です学校の周知に努力している。

Ⅸ 卒業生の状況

1回生の国家試験合格率は97.5%であった。希望者には准看護師資格試験も受験させ、進路は希望先に100%就職（78名）・進学（2名）することができた。

期待する卒業生像について就職先からの評価は実施しておらず、今後は卒業時の到達評価とともに評価していくことが必要である。

Ⅹ 社会への貢献

学生自治会がないこと、ボランティアが組織化されていないことから、当校のボランティアの件数は少ない。社会貢献としては、病院研修時に使用する教材の貸し出しに対応している。

今後は、地域に対するボランティア活動が学校の行事計画等とタイアップされていくことが望まれる。

Ⅺ 研究・研修活動

1学年3クラスあることから、科目時間数に対して授業時間は3倍となる。教員は領域実習や学校行事、クラス担当としての役割などで、主体的な研究活動が実施できていない。また、Webでのセミナー情報などを教員に提供しているが、外部研修計画や機会が少なく今後の課題である。今後は学校評価・授業評価を分析し研修参加のシステム構築など改善につなげる必要がある。

外部講師としては、看護協会での研修講師、病院での現任教員を派遣している。

Ⅻ 学校評価

初めての学校評価であるため、個々の項目に対する解釈に差が生じた可能性が高く、評価の点数差が大きい項目もあった。今後は学校評価項目の解釈を教員間で共通理解するとともに、学校評価における点数の低い項目を改善できるよう取り組んでいきたい。

2019年度 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、葵会看護専門学校の2019年度自己点検・自己評価報告書に対する3名の学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

2020年8月11日

学校関係者評価委員

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価大項目等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

3 学校関係者からの評価意見

評価者：病院長

- (1) 自己評価大項目等の適切性

大項目も適切に設定され、小項目は大変詳細で明確な指針としても活用できる構成になっていると思われる。

- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

概ね3点台の評価だが、Ⅹ社会への貢献、Ⅺ研究・研修活動及びⅫ学校評価が2点台となっており、今後の検討を期待する。

質問項目のある部分は、大学(短大)卒学生の単位認定の有無、単位認定会議や卒業認定会議開催回数等はすでに決定していることと思われ、また、就職率もすでに判明していることであり、周知を進める事で点数増加につながると思われる。

(3) その他

大変詳細に項目を立てて評価され幅広い視点からの検討となっていることは良いことと思われる。引き続きより運用しやすい項目立て及び評価体制を構築されることを期待する。

評価者：病院看護部長

(1) 自己評価大項目等の適切性

- ① 国家試験合格率が初年度にしては高く、進路も希望先に100%就職できており、学生支援の充実が図られており、高く評価できる。
- ② 教員免許を持たない教員に対するキャリア支援を行っており、教員の質向上に尽力している点も評価できる。
- ③ 多くの機会を使って活発な広報活動を実施しており、結果として学生の定員数は満たされている点から、学校運営の安定面を考えると評価できる。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

- ① 自己評価の結果を踏まえて、今後の改善策が適切に考えられている。
ただ、優秀な学生を確保するためにも、今後、更なる受験者数の確保に努める必要があると考える。

(3) その他

- ① 休学者・退学者のデータもあるとよい。
- ② 教員間のコミュニケーションが図られ、信頼関係を持てるような職場環境であるかどうかも評価に加えた方がよいと考える。(教員の雰囲気は学生に伝わり、指導にも影響を与えると考えるため)
- ③ 実習場所の評価も実施してほしい。
- ④ 看護職の社会人基礎力は重要で、地域貢献度も非常に高いと考える。社会人基礎力をどのように育成して、どのような成果がでているのかも評価に加えて頂きたいと考える。
- ⑤ 医療の世界は日々進歩しており、教育内容もそれにつれて多くなっていると思われる。臨床から離れている時間が長いと現在の医療現場から疎くなってしまいがちである。学校と臨床の相互理解を深めるためにも、同グループ病院内で、臨床に身を置く時間も設けてはどうかと考える。

評価者：学校顧問

(1) 自己評価大項目等の適切性

教育理念を入学時、学校紹介パンフレットに記述・説明し学生だけではなく保護者にも伝えていることは適切である。教育課程は教育課程を評価する機会の構築が望まれる。教育活動は領域ごとに検討し授業計画や改善につなげていることは適切である。教育体制では講師の都合に合わせた進度になることにも工夫している。学生生活支援では、クラス担任と連携して学生のサポートは適切である。組織・管理運営の学校での決定事項は運営会議で迅速に決定しており、職務分掌に応じた業務を遂行していることは適切である。施設設備は、検討され評価している。学生受け入れには学校との連携をとっていることは適切である。卒業生の状況は把握している。社会への貢献、研修・研修活動、学校評価は今後期待されることである。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

教育理念の浸透方法や教育課程の医療創生大学とのカリキュラムの整合性をとること。教育体制でのカリキュラムに合わせた講師選択の改善や、学生への支援体制を整えることは重要なことである。組織管理をするうえで、学則に沿った判断や会議での、合意事項については速やかに実施し、学生への説明や同意を行っての管理運営が必要である。施設設備では図書充実を図るために、各領域に優先順位をつけて計画的に購入することが望まれる。学生受け入れは学校が目指す入学者の志願者の質確保のために近隣の高校に働きかけることは望ましい。社会への貢献のためボランティアを学校行事に組み込むことは適切と思われる。教員が研究・研修活動は教員のスキルアップを図るため、主体的な学会参加や研究活動をするための分析や改善策が望まれる。学校評価は学校評価のツールがあり教員はそれを理解していることが望まれている。

(3) その他

本校の教員は真面目で、日常業務に前向きに取り組む特徴がある。看護学校では組織を評価する上に職務分掌の遂行だけでなく、組織として専門領域間が共に連携を取っているか、それが機能しているかも問われる。研究・研修活動の一環として領域を活用した研究活動をするこも、本校の特徴が表現できると考える。副学校長を中心に「研究委員会」を設置してもよいと思われる。

4 評価総括

100 項目の評価内容に向き合うことで、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標設定やエビデンスとなる必要な評価基準の不足に気づくことが多かった。特に平均点 2 点台となった大項目に関しては、低評価となった具体的な理由を丁寧に洗い出すことで、改善すべき課題が明確となった。また、学校関係者からの評価・助言を受け止め、組織的・継続的な改善を図り、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めることを目指していきたい。